

関係者各位殿

様

2015年8月5日

早稲田大学学生環境 NPO ロドリゲス
全国大学生環境活動コンテスト実行委員会

早大生らによる「佐渡のうめえもん」イメージ調査へのご協力をお願い

拝啓 暑さ厳しき折ながら、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
私ども早稲田大学学生環境 NPO ロドリゲス(以下、ロドリゲス)が 2010 年より実施しております夏の「佐渡旅」にも、例年、格別のご配慮とご支援をいただきありがとうございます。
さて、本年は、全国大学生環境活動コンテスト実行委員会(以下、略称エココン)との協働プロジェクトとして、「佐渡のうめえもん」イメージ調査を実施することになりました。
佐渡で作られ、売られている食品について、都会の消費者、若い世代、学生という立場から評価し、今後の生産・加工・販売に役立てていただけるようレポートするという趣旨です。初年度の今年も、調査プロジェクトの骨格を検証する「イメージ調査」と位置付けており、生産・販売事業者様への取材、販売店頭調査、消費者調査、実食品評会などを計画しております。
つきましては、「佐渡のうめえもん」の生産・加工・販売などに関係しておられる方々、参考となる知見や資料をお持ちの方々などに、ぜひともご協力とご支援を賜りたく、ここにお願いする次第です。本状に添付します書類もご高覧の上、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

<添付資料>

1. ロドリゲスおよびエココンについて
2. 調査の内容
3. 活動予定

<連絡先>

- 早稲田大学学生環境 NPO ロドリゲス REC 部門代表 萩野(はぎの) 翔
携帯 090-5776-7215 <http://www.rodorigues.com/>
- 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会 事務局 北本健人
電話 03-3580-8284 (株ダイナックス内) <http://www.ecocon.info/>
- 同上 アドバイザー 土屋晴仁(元(協組)佐渡社中、ポツテガ・サド代表)
携帯 090-3473-6394

<添付資料 1.> ロドリゲスおよびエココンについて

(1) 早稲田大学学生環境 NPO「環境ロドリゲス」

1997年に発足した早稲田大学の公認サークル。「学生が主体となって多様なアプローチで環境問題の解決に貢献する。」を理念として掲げ、現在、90名のメンバーが、リサイクル商品の開発や、小学生を対象とした環境教育等7つの企画で活動している。その企画の1つが、「自然環境を活かした地域活性」(略称 REC)で、2010年から佐渡島を舞台に下記のような活動を続けている。

①「佐渡旅」の催行:毎年夏に「佐渡旅」という合宿型のイベントを開催している。都会に住んでいる学生を自然が豊かな佐渡島に連れて行くことで佐渡島の魅力を実感してもらう。2015年度で5回目となり、通算で20大学以上、150名の学生を佐渡島に連れてきている。

②地域活動:島内の特定地域にフォーカスし、地域の抱える課題を学びながら問題解決に繋がるボランティア活動を実施。新穂・島集落および両津・羽二生集落で、ビオトープの整備や防波堤アートなどを通して地域の方との交流を図っている。

こうした活動実績に対して、環境省主催「グッドライフアワード 2014」を受賞した。

●<http://www.rodorigues.com/>

(2) 全国大学生環境活動コンテスト(ecocon)実行委員会

2003年に学生環境活動団体の活性化を目的とする取組を行うために設立された任意団体。主な取組は毎年12月にecoconを開催することで、全国の大学生環境活動団体の1年間の活動の振り返りや、翌年の取組のヒントを提供する場を企画するとともに、参加団体同士のネットワークを構築している。学生スタッフを中心に企画運営を行い、運営支援を民間事業者が無償で行っている。その他、環境に様々な立場から関わる社会人がアドバイザーとして無償で協力を行っている。主な活動実績として以下のようなものがある。

①コンテストの開催:全国の学生環境活動団体の実績について発表を行い、優秀な団体の活動に対し表彰を行うコンテスト形式のイベント。今年で13回目。様々な企業、行政、NPO、学識経験者及び学生が選考を行うことで、参加団体は発表や選考を通じて多角的な評価を得、交流会や分科会に参加することもできる。これまでに延べ約600団体、約1万人が参加。

②関連イベント:地球環境基金の助成を得て様々なイベントの企画・運営および学生環境活動の活性化を目的としたワークキャンプを実施。様々なメディアでも報道されてきた。

協力団体として、環境省、文部科学省、(独)環境再生保全機構、(独)国立青少年教育振興機構、ユニクロ、LUSH、(公財)損保ジャパン日報興亜環境財団 他

●<http://www.ecocon.info/>

<添付資料2.> 調査の内容

1. 対象とする食品のリスト作成と調査

佐渡島内において生産・加工・販売され、かつ島内外で流通・消費されている食品を下記の8ジャンルに分類し、個別商品の特色、需給状況、文化的背景、課題なども調査する。

①米及び加工品、②農産品及び加工品、③水産品及び加工品、④酪農製品、⑤山菜、⑥醸造品⑦菓子類⑧その他

2. 生産・加工・販売の実情

それぞれの事業従事者、事業者、店舗などに取材。首都圏の佐渡物産販売事情について、実績統計やインタビューなどを中心に調査する。

3. 実食による感想などのとりまとめ

「佐渡旅」に参加する約70名の学生による実食品評会での反応・感想などを取りまとめる。

4. 調査結果の公表(フィードバック)

10月の早稲田大学校友会催事「稲門祭」で調査結果を公表。マスコミなどにも公表。取材などに協力していただいた関係者、各企業などにもレポートを提出して、それぞれの活動に役立ててもらおう。また、次年度以降の活動の深化についても計画をまとめる。

~~~~~

#### 調査内容の事例(仮)

##### ●「いごねり」について

- ①海藻のエゴ(イゴ)草を煮詰めた後に固め、薬味などを添えて食べる伝統食品。
- ②島内では幅広の帯状に成形して丸めたものを販売。購入者はこれを輪切りにして麺状にし、ネギや生姜、辛子などと醤油をあえて食べる。とくに夏場や朝食のあっさりした食べ物として人気がある。
- ③事業者としては「早助屋」「丸仲商店」などが大手(販売量? 平均価格?)。飲食店や宿泊施設業者では、自家製ものを提供するところもある。
- ④新潟、長野、青森などの地域でも食べられている。青森では「エゴ天」、九州・福岡では「おきうと」の名称。有名ラーメンチェーン「一蘭」本店でも提供。切り分ける形状が違うものや中に辛子を練り込んだものなど、各地で異なる。
- ⑤佐渡汽船売り場や、都内での物産市などでも人気がある。(。実績値)。購入層は、帰省客や懐かしさを感じる年配者が多い。若い人は、あまり関心を示さない。この点に課題か?

~~~~~

<添付資料3.> 活動予定

1. 8月8日～10日

ロドリゲスメンバー約10名が佐渡入り。新穂地区島集落にて交流会と地域活動
(宿泊拠点は、新穂146番地)

2. 8月11日

素浜海岸キャンプ場に宿泊

3. 8月12日～14日

実情調査(島内各地)

4. 8月15日～16日

両津地区羽二生集落にて交流会と地域活動(「盆踊り大会」の手伝いなど)

5. 8月17日～21日

エココンスタッフも合流して、関係者との面談、インタビュー、店頭調査など

6. 8月22日～25日

実情調査(島内各地)

7. 8月27～31日

「佐渡旅」参加者約70名が来島。4つのコースに分かれての体験型ツアー

8. 8月31日

主な調査対象食品を集めての実食品評会。夕方18:30～21:30. トキ交流会館

10. 9月

都内の佐渡産食品取扱いの事業者などに対する調査と、多角的な分析、レポート作成

11. 10月18日

早稲田大学校友会催事「稲門祭」にて調査結果の公表。関係各方面へのレポート送付。次年度以降の計画についても公表予定。